

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立玉造小

学校

児童数

126

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	17.13	20.82	30.10	40.82	41.20	9.61	152.38	20.73	51.86
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	16.96	20.60	33.49	38.00	32.65	9.82	145.04	13.26	52.28
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

測定項目8項目中、男子は4項目、女子は6項目で大阪市の結果を上回った。また、男子は3項目女子は4項目で全国の結果を上回った。しかし、体力合計点を見ると男子は、大阪を上回っているものの全国より低く、女子は全国・大阪を下回った。これらの結果から、今年度の第5学年児童の体力・運動能力は、全国平均と比較してやや下回っていることがわかった。

運動習慣については、児童質問紙「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目においては、肯定的な回答が男子96.7%大阪市の平均を3.3ポイントを上回ったのに対して、女子84%で大阪市の平均85%に1ポイント及ばなかった。

1週間の総運動量は男子14.9%、女子21.6%で大阪市の結果を男子は3.2ポイント女子は1.2ポイント上回っていることから、第5学年児童は概ね男女ともに運動が好きで、授業以外でも運動に親しんで取り組んでいるものの、十分な結果に結びついていないことがわかった。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

男子は4項目、女子は6項目において大阪市平均を上回ったが、男女共に特に長座体前屈、20mシャトルランの結果の差が大きいことから、柔軟性や持久力に課題があることがわかった。本校の運動場は狭小であり、児童全員が同時に運動場で運動することはできない。したがって、持久力を伸ばすために、運動場の効果的な活用法を再検討するとともに、体育学習においても柔軟性を高めるためのストレッチや、持久力を高めるためにおにごっこや水泳、なわとびや持久走などに積極的に取り組む必要がある。

この他、運動技能や体力面における児童間の差の広がり、二極化への対応も課題である。運動を得意とする児童の能力を更に伸ばすとともに、苦手意識をもつ児童が安心して学習に参加し、成功体験を積み重ねることができる学習保障が求められる。運動をする機会を確保するために、限られた空間を効果的に活用したなわとび週間、かけ足等や短時間で効率的に運動量を高めるサーキットトレーニングを実践する。今後も、すべての児童が主体的に運動に取り組む態度を育成できるよう、学校全体で体力向上の取組を推進していきたい。